



## 学校の給食を通じて SDGsを考えてみよう

最近では、テレビや雑誌でSDGsに触れる機会も増えてきましたが、今回は夏休みを過ごす小学生から中学生の皆さんに向けて、SDGsと亀岡での学校生活がどのようにつながっているのか、身近な例を通じてお話しします。

日本の学校給食で発生する食べ残しは、1人当たり年間7.1kgといわれています(※注1)。亀岡市内で暮らす皆さんの中にも、お腹がいっぱいになって給食を残してしまった経験がある人がいるかもしれません。一方で世界で8億2100万人は、ご飯を十分に食べることができず、栄養が足りない「<sup>き</sup>飢餓」の中で暮らしていると言われてます(注2)。

ご飯を食べ残してしまう人がいるにもかかわらず、十分に食べることができない人がいる——このような不公平はなぜ生まれてしまうのでしょうか。

SDGsでは、こうした問題を解決するために「<sup>ひん</sup>貧困をなくそう(目標1)」や「<sup>き</sup>飢餓をゼロに(目標2)」といった目標が掲げられており、世界全体で考え、協力することが必要とされています。

そこで、まずは「給食の食べ残しをどうすれば減らすことができるのか」といった



身近な話題をきっかけにして、友達と一緒にSDGsについて考えてみてはいかがでしょうか。

注1) 2013年の推計。環境省ウェブサイト (<https://www.env.go.jp/press/100941.html>) より引用

注2) 2017年時点。国連広報センターウェブサイト『持続可能な開発目標(SDGs)報告2019』から引用

市ホームページに、今までの  
教えてコスモさん!  
～SDGsのアレコレ～  
をまとめたページが  
できました。



市ホームページ

## 高木 超(たかぎ・こすも)

▶ 慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科 特任助教  
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)